

第5学年 社会科学学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「わたしたちの食生活を支える食料生産」 教材名「これからの食料生産」

2 単元の目標

食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(2)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①これからの食料生産の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「これからの食料生産」は、第5学年の(2)を手掛かりに、人々の働きと社会の仕組みを調べる単元である。中心となる理解は、食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、既習の生産の工夫と食生活を振り返るところから始め、生産者と消費者の願いを比較する活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末にはこれからの食料生産への考えを述べることで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「これから食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」を中心の問いに据える。食料の産地分布、生産の変化、輸入の資料を年・単位をそろえて読む。生産者の工夫と消費者の選び方を関係付け、安定して食料を確保するための取組を複数の立場から検討する。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。国産ならすべてよい、輸入をなくせばよいという単純な結論には、価格、自然条件、供給の安定、働く人の立場を資料で比べる。自給率は定義の違う数値を混ぜない

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。家庭の食費や食事内容を公開しない。数値は公的資料の対象年度を明示し、実際の購入を課題にしない

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○既習の生産の工夫と食生活を振り返る。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	3	○産地と生産の変化を資料で読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	4	○輸入との関わりを調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	5	○生産者と消費者の願いを比較する。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	6 （本時を含む）	○食料確保の取組を理由付きで選ぶ。 ○食料の産地分布、生産の変化、輸入の資料を年・単位をそろえて読む。生産者の工夫と消費者の選び方を関係付け、安定して食料を確保するための取組を複数の立場から検討する。	思①（個人の説明・記録）
第6次	7	○これからの食料生産への考えを述べる。	態①（記録の見直し・振り返り）

6 本時の指導（6／7（配当案））

（１）本時の目標

「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「既習の生産の工夫と食生活を振り返る」ときの疑問を取り出す。 ○「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれるのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・家庭の食費や食事内容を公開しない。数値は公的資料の対象年度を明示し、実際の購入を課題にしない
展開 （ 分）	○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確かめる。 ○食料の産地分布、生産の変化、輸入の資料を年・単位をそろえて読む。生産者の工夫と消費者の選び方を関係付け、安定して食料を確保するための取組を複数の立場から検討する。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方確かめ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・生産者と消費者の願いを比較することで、理由を確かめたい。	・国産ならすべてよい、輸入をなくせばよいという単純な結論には、価格、自然条件、供給の安定、働く人の立場を資料で比べる。自給率は定義の違う数値を混ぜない ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。 ◎思① 「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれる。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に「これからの食料生産」と本時の問い「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。生産者と消費者の願いを比較する際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

